



Ⅲ 平城宮跡等の調査概要

表25 2013・2014年度 都城発掘調査部（平城地区）発掘調査一覧

調査次数	調査地区	遺 跡	調査期間	面 積	調査地	担当者	調査要因	掲載頁
(2013年度)								
520次	6ABQ-H	平城宮第一次大極殿院広場	2014.1.7～2014.3.18	476㎡	奈良市佐紀町	海野 聡	学術調査	142
522次	6AFJ-Q・P・R	平城京左京三条一坊一坪	2013.12.16～2014.3.28	1,953㎡	奈良市二条大路南	山本祥隆	建物建設	160
523次	6SNY	中山瓦窯	2014.1.21～2014.2.10	135㎡	奈良市中山町	石田由紀子、川畑 純	建物建設	168
524次	6BFK-E	平城京左京二条二坊十四坪	2014.2.3～2014.2.18	48㎡	奈良市法華寺町	青木 敬	宅地造成	176
525次	6BKA-C	海龍王寺旧境内	2014.2.19～2014.2.28	30㎡	奈良市法華寺町	青木 敬	建物建設	184
526次	6BFO-C・D	法華寺旧境内	2014.3.6～2014.3.18	30㎡	奈良市法華寺町	青木 敬	住宅建設	187
(2014年度)								
527次	6ABA-E	平城宮内裏北方官衙地区	2014.4.1～2014.4.7	13.3㎡	奈良市佐紀町	番 光	住宅建設	140
528次	6ABN-K	平城宮大膳職地区北方	2014.4.1～2014.4.7	45㎡	奈良市佐紀町	庄田慎矢	住宅建設	140
529次	6BFO-E・F	平城京左京一条二坊十坪	2014.4.9～2014.4.11	10㎡	奈良市法華寺町	庄田慎矢	住宅建設	140
530次	6AGC-I 6AGA-J	平城京右京一条二坊四坪・ 二条二坊一坪・一条南大路	2014.4.14～2015.2.18	3,591㎡	奈良市二条町	小田裕樹、鈴木智大、 神野 恵	学術調査	191
531次	6ANN-C	平城宮跡（市庭古墳）	2014.4.16～2014.4.24	32㎡	奈良市佐紀町	庄田慎矢	住宅建設	140
532次	6BFK-I	法華寺旧境内	2014.4.22～2014.5.30	210㎡	奈良市法華寺町	庄田慎矢	宅地造成	187
533次	6AFF-D・E	平城京左京二条二坊十一坪	2014.7.2～2014.8.22	270㎡	奈良市法華寺町	石田由紀子	住宅建設	195
534次	6AFJ-E・F	平城京左京三条一坊十五坪	2014.6.3～2014.7.24	400㎡	奈良市二条大路南	庄田慎矢、番 光	店舗建設	201
535次	6AJF-O	平城京右京三条一坊十五坪	2014.7.1～2014.7.2	6㎡	奈良市二条大路南	石田由紀子	住宅建設	140
536次	6BYS	薬師寺東塔	2014.7.8～2015.4.22	314.2㎡	奈良市西ノ京町	青木 敬	学術調査	204
537次	6BFK-I	法華寺旧境内	2014.8.5～2014.8.6	12㎡	奈良市法華寺町	馬場 基	宅地造成	140
538次	6ASB-L	平城宮北方	2014.8.25～2014.8.28	40㎡	奈良市佐紀町	石田由紀子	店舗建設	140
539次	6AED-E	興福寺旧境内	2014.9.16～2014.10.2	50㎡	奈良市東向中町	石田由紀子	店舗建設	205
540次	6BKF-L・M	興福寺境内	2014.9.29～2015.1.16	451㎡	奈良市登大路町	芝康次郎	学術調査	212
541次	6BKF	興福寺境内	2014.10.7～2015.2.12	270㎡	奈良市登大路町	山本祥隆	防災工事	212
542次	6ALO-M・N	平城宮東北官衙地区	2014.10.14～2014.11.27	272㎡	奈良市法華寺町	渡辺晃宏	史跡整備	151
543次	6ABA-E	平城宮内裏北方官衙地区	2014.12.15～2014.12.24	14㎡	奈良市佐紀町	渡辺晃宏	住宅増築	140
544次	6AFO-D	法華寺旧境内	2015.1.13～2015.2.6	126㎡	奈良市法華寺町	渡辺晃宏	住宅建設	140
545次	6AFB-J	法華寺旧境内	2015.2.4～2015.2.12	24㎡	奈良市法華寺町	小田裕樹	住宅建設	140

表26 2014年度 都城発掘調査部（平城地区）小規模調査等の概要

調査次数	遺 跡	調 査 の 概 要
527次	平城宮跡内裏東方官衙地区	住宅建設にともなう事前調査。調査区は東区と西区の2ヵ所設定し、いずれも地山上面で遺構を検出した。地山はもっとも浅い部分で現地表下10cm（標高75.40m）で確認したが、いずれの調査区も現地表下0.5～0.6mまで近代の造成により削平される。東区では中近世の南北溝の東肩を検出した。西区は顕著な遺構はみられなかった。
528次	平城宮跡大膳職地区北方	住宅建設にともなう事前調査。現地表面より最大で1.9mまで掘削したが、調査区全体を昭和の公衆浴場の煙突の基礎が破壊していたため、近代以前の遺構は検出されなかった。
529次	平城京左京一条二坊十坪	住宅建設にともなう事前調査。調査区は東西2m、南北5m。地山上面（標高72.00m）で遺構検出をおこなった。調査区内では近世以前の遺構は確認されなかった。
531次	平城宮跡（市庭古墳）	住宅建設にともなう事前調査。現地表下0.6～0.7m（標高74.2～3m）で遺構面を確認した。上層で平城宮の造営と関わる整地土を確認したが、建物などの遺構は検出されなかった。下層では市庭古墳の周濠底（標高72.15m）を確認し、周辺の調査成果とあわせて市庭古墳の東南部の様相がより一層あきらかになった。
535次	平城京右京三条一坊十五坪	住宅建設にともなう事前調査。調査の結果、調査区全体が自然流路の中にあることが判明した。遺構は自然流路を埋め立てた整地土の上面で検出している。遺構面の標高は78.3m。奈良時代の可能性のある土坑を1基検出した。
537次	法華寺旧境内	住宅建設にともなう事前調査。現地表面下35～55cmで地山（標高64.9～65.1m）を確認した。近世以降の土坑1基を確認したほかは顕著な遺構は確認できず、中世以降の大規模な造成で古代の遺構面は削平されたとみられる。
538次	平城宮北方	店舗新築にともなう調査。調査区は西区と東区の2ヵ所設定し、いずれも地山直上で遺構を検出した。地山の標高は、西区で78.3m、東区で78.4m。今回の調査では、西区で落ち込みを検出した他は顕著な遺構は認められなかった。調査地は周辺部より一段低く、後世の水田開発等で古代の遺構面は削平されている可能性が高い。
543次	平城宮跡内裏北方官衙地区	住宅増築にともなう事前調査。東西2m、南北7mの14㎡。現地表下0.5～0.7mの市庭古墳周濠の埋立・整地土面で約10基の穴を確認したが、性格や時期は不詳。また一部で検出面から約185cmで周濠底の青灰色シルトの地山面とその直上に堆積する有機質（径10cm超の大型木片〈自然木か〉）を多く含む灰黒色粘土層約20cmを確認した。
544次	法華寺旧境内	法華寺旧境内北端にあたる場所で、共同住宅建設にともない東西9m、南北14mの126㎡の発掘調査を実施。現地表下40～60cmの地山面で、奈良時代と考えられる東西塀・南北塀各1条東西溝1条のほか、中世から近代に至る遺構を検出した。遺物は奈良時代の瓦・土器のほか、近世染付が出土。詳細は『紀要 2016』で報告予定。
545次	法華寺旧境内	共同住宅建設にともなう事前調査で、東西6m、南北4mの調査区を設定した。現地表下約0.5～0.7m（標高63.2～63.5m）で遺構面を確認した。奈良時代の整地土層および14～15世紀代の井戸1基と時期不明の小穴群を確認した。遺物包含層からは奈良時代の瓦、土器が多量に出土した。

表27 2014年度 都城発掘調査部（平城地区）現場班編制 ※総担当

春	夏	秋	冬
庄田 慎矢（考古第一）	尾野 善裕（考古第二）	※芝 康次郎（考古第一）	※神野 恵（考古第一）
※小田 裕樹（考古第二）	石田由紀子（考古第三）	青木 敬（考古第二）	川畑 純（考古第三）
今井 晃樹（考古第三）	馬場 基（史料）	山本 祥隆（史料）	渡辺 晃宏（史料）
番 光（遺 構）	※鈴木 智大（遺 構）	箱崎 和久（遺 構）	松下 迪生（遺 構）
	浦 蓉子（考古第一：研修）	大澤 正吾（考古第二：藤原）	
	金 宇大（考古第二：藤原）	清野 陽一（考古第三：研修）	
統括：副所長 小野 健吉		写真担当：企画調整部写真室	